

第4回 長浜市総合計画審議会 議事録

- I 日時 平成28年3月24日（金曜日）13時30分～15時30分
- II 場所 長浜市役所西館3階 3Bコミュニティルーム（長浜市八幡東町632番地）
- III 出席者 石井良一委員（会長）、 神谷昌史委員、 松島三兒委員、
大久保槇雄委員、 塚田益司委員、 中西恭子委員（副会長）、
福島孝夫委員、 大谷晶子委員、 板山きよ美委員、
平川市孝委員、 川崎四朗委員
【事務局】藤原総合政策部長
総合政策課：元村副参事、川村主幹、柴田主事
- IV 欠席者 平山奈央子委員、 前田優子委員、 中嶋毅委員、
押谷喜美子委員

V 傍聴 1名

VI 内容

1 開会

事務局 事務局は開会を宣言した。

2 市長あいさつ

藤井市長 昨年6月の諮問以降、毎回熱心に審議を賜っていることにお礼申しあげます。本日は、今年度最後の審議会であり、総合計画の根幹を成す基本構想案を審議いただく大切な機会です。改めてよろしくお願いする。

新たに策定する総合計画は、20年、30年先を見据えた市政運営の根幹をなす大変重要な計画です。これまで、市民懇話会では大変熱心に意見交換を積み重ねていただき、市民目線による素晴らしい提言を取りまとめていただきました。また、当審議会においても慎重にご審議いただくとともに、庁内においても幹部職員による検討会議、さらには若手職員を中心としたワーキンググループにおいて鋭意検討を進めているところである。

さて、去る3月21日（月曜日）、首都圏における本市の情報発信の拠点となる『びわ湖長浜 KANNON HOUSE』を東京上野の不忍池のほとりにオープンすることができました。本市には約130体の観音様がおられ、これを地域の皆さまがおらの村の観音様ということで継承し、長年にわたり

守ってこられた。これは他の地域では真似できない長浜の素晴らしい財産であり、この祈りの文化を広く発信したいとの思いから設置に至ったものである。また、本年7月5日（火）～8月7日（日）の期間中、東京芸術大学との共催で、『観音の里の祈りとくらし展』の第二幕を上野の地で開催することとなった。まさにこれこそ、長浜ならではの地方創生に向けた取組であると考えている。

また、若い人に選ばれるまちでありたいということで、今年の9月から、市内小学校の給食費を無料化するという一大決心を行った。これは、10万都市以上では全国初の試みであり、次代を担う大切な宝である子ども達を地域の大人全体で育てるという強い思いを込めた取組である。さらに、子育て支援策として所得や年齢に関係なく、第2子から保育料を半減、第3子以降は無償化するという施策にも取り組むこととした。

総合計画の策定は、本年9月の議会上程を目指している。委員の皆さまには、夢と魅力を共有できる総合計画となるよう、引き続き、忌憚のないご意見と慎重なるご審議をいただきますことをお願い申しあげる。

3 議 事

(1) これまでの検討経過について

事務局 事務局は、資料1に基づき説明を行った。
一質疑なし

(2) 新基本構想（案）について

事務局 事務局は、資料2及び3に基づき説明を行った。

会 長 詳細な事項は、以降の基本計画において記載していくことになることから、基本構想では抽象的な表現にならざるをえない。

前回の審議会以降、庁内ではどのような検討がなされたのか。

事務局 将来都市像について、庁内でも様々な意見があり、例えば「最終的なまちのすがたを表すべき」、「取組の姿勢を表すべき」などの議論があった。また、「英語表記については日本語にできないか」という意見もあったが、若い職員を中心に「挑戦と創造」という言葉を入れたいという強い思いがあり、市として最終的に英語表記とし、ハイカラさを出したいと考えているところである。

会 長 市議会への説明はいつ頃になるのか。

事務局 審議会終了後、4月上旬に案として説明することとなる。

委 員 今後、文章の段落の作り方などは編集されるのか。また一文が長く、もう少し短く区切った方がよいと思う箇所もいくつか見られる。

会 長 文章は、通常の段落の作り方で記載する方向で良いと思われる。一文が長い箇所については、必要に応じて事務局で修正を加えてほしい。

なお、8 ページの 3.3「人口の長期的な見通し」と 9 ページの 3.4「将来都市構造」については、2 章に入れた方が良くと思うので、検討していただきたい。

会 長 先ほども藤井市長は子育て支援に力を入れると言われていたが、最近
は子育てしながら働く世代に対する支援なども注力していかなくては
ならない環境にある。4 ページの 3.2.2 で「高齢化の進行に伴い日常生
活に支援が必要な人が増加している」との記載があるが、高齢者に限ら
ず、幅広い人々にもあてはまるような表現にできないか。

また、施策体系中に環境の項目があるが、課題に対応する部分が無い
のではないか。琵琶湖の保全に関する法律ができたことや自然再生エネ
ルギーの活用が重要視されていることもあり、環境・エネルギーに対応
する記載が希薄であることも気になる。

委 員 6 ページの 3.2.7 に「魅力と競争力のあるまち」とあるが、「競争力の
ある」の意味がよくわからない。他の自治体より抜きに出て選ばれるま
ちという意味だと思うが、この表現ではピンとこない。

事 務 局 おっしゃるとおりの意味である。「選ばれるまち」などといった別の
表現を検討したい。

委 員 6 ページの 3.2.6 の中で、「食」について、どのように取り組んでいく
のかが記載されていない。課題認識の項目では記されているので、単純
に抜け落ちているのかと思う。

会 長 食の所管部局はどこになるのか。食といえば農や漁もあり、またレス
トランなどの飲食もあり、概念としてはとても広がりがある。

事 務 局 例えば、食の供給については産業観光部、食育などは教育委員会とな
る。現段階では表現できていないが、重点テーマの「みなぎる」に紐付
く重点プロジェクト（基本計画で記載）において、「食と農」を位置付
けるべく検討を進めている。したがって、基本計画の中でしっかり表現
できればと考えている。

会 長 前回の審議会以降、将来都市像についてはどのような検討を重ねら
れ、現状としてどのように考えているのか。

委 員 基本構想ではこのような表現になるかもしれないが、例えば「長浜」
の部分で「敦賀」に変えたとしても使ってしまうのではないか。「長浜
らしさ」「長浜だからこそ」と感じられる部分はどこにあるのか。この
地域が元来持っている長浜らしい魅力を表現することが大切である。例
えば、長浜で暮らす幸せといえば、どこに幸せを感じるのか。また、今
住んでいる人は何に魅力を感じ、その魅力を膨らませていくべきだと思
っているのか。現状に問題があるからということではなく、今の長浜の
良さがわかるような表現をしてほしい。そういう基本的な認識がベース
にあると今後やりやすいのではないかと思う。

- 事務局 合併を経て、様々な環境の変化がある中で、長浜の魅力についても議論を重ねてきた。3ページの地勢と成り立ちの中で、相互扶助、住民自治、不易流行、進取の気性などについて記載をしている。相互扶助の精神によるまちづくりを基礎として、常に新しい考え方や文化などを先進的に取り込んできたことで、今日の長浜の発展があると考えている。これが長浜の強みであり、それは今も脈々と流れ、受け継がれている。そこに基軸を置くことで、今回の将来都市像を提案させていただいた。委員ご指摘の独自性については十分に表現できていないかもしれないが、様々な表現を検討した中で、今回提案させていただいたものが、最も長浜らしさを表現できているのではないかと考えている。
- 会長 10ページの将来都市像の説明で記載されていることが全てではないかと思う。今後とも新しい形で生かしていくことを表そうとすると、このような将来都市像の表現になるのではないか。
- 事務局 補足すると、市議会でも将来都市像については、「観光都市 長浜」や「産業都市 長浜」といった表現の方がわかりやすいのではないかという意見もあった。事務局としては、これからのまちの作り方や姿勢といったものを一番大切なところで謳うことこそ、長浜らしさなのではないかと考えている。これまでの計画では、将来のまちのゴールをビジョンとして描くこととしてきたが、今回の総合計画ではどういう姿勢で臨んでいくのかということを通理解とした方が、誰もが共有できる計画になるのではないかという考えを持っている。「将来都市像」という言葉に違和感があるのであれば、表現を変えることも可能である。まちをつくるプロセスや姿勢を共通認識としていくべきではないかというのが、新しい総合計画の考え方である。また、このような考え方のもと、若手ワーキングが熱心に検討に取り組んでいるので、その姿勢を尊重したいという思いもある。
- 委員 まちづくりで頑張っている姿勢自体が魅力なのだということはよくわかる。黒壁のように、長浜には膨らませることができる魅力がたくさんあると思う。その部分の掘り起こしを是非お願いしたい。
- 事務局 14ページに「高い資質を持った組織づくり・人材育成を行います」とあるが、市役所内だけで人材育成をしてもダメで、市の職員が若い頃から市民・民間の現場に入り込むことこそ、人材育成に繋がるのではないかと思う。
- 会長 職員を地域づくり協議会に1~2年間派遣し、地域の方々と一緒に地域づくりに取り組みながら現場感覚を養う教育を実施している。また、職員の中には市民とともに自らNPOを立ち上げている者もあり、委員ご指摘のとおり民間への入り込みは非常に重要なことだと思う。
- 会長 それこそ「みんなで未来を創る」職員を育てることが重要である。

- 委員 敦賀でも同じではないかという意見があった。大きくまとめる場合は抽象的な表現にならざるを得ないが、その前段となる部分に考え方の基礎となるものがあれば納得できると思う。
- まちづくりは人づくりであり、子どもをいかに育てるかという視点は大事であるが、教育的な見地からすると、教育の果たす本来の役割を記載されている箇所が少ないと感じる。13 ページの構想実現に向けた行政の取組の部分に具体的な文言を追加できないか。
- 会長 そのあたりはどのように考えているのか。
- 事務局 委員ご指摘の人づくりについても、重点プロジェクトの中で位置付けるべく検討を進めている。したがって、基本計画の中でしっかり表現できればと考えている。
- 委員 歴史教育をもっとやってもらいたい。先人たちの頑張りのおかげで今の長浜のまちがあることを知れば、地域に対する愛着もより湧くのではないかと思う。以前、長浜駅の東口にガラスのモニュメントを製作した際、秀吉と長浜のまちの結びつきの話題があがった。長浜というまちは、元々あったものでなく、秀吉によって創られたまちであり、その歴史が今も脈々と息づいている。今の若い世代は、そういったことを十分に教えられていないのではないかと思う。広い意味で地域を知るという取組を進めてほしい。
- 事務局 先般の総合教育会議において、郷土愛や郷土教育をテーマに取り上げ、道徳教育の専門家を招き、市長と教育長、教育委員の皆さんとで意見交換していただいた。その際、現在は生涯学習部局で取組を進めている「長浜学」といった講座を、今後は学校教育に取り入れてみればとの意見もいただいております、非常に重要なことだと考えている。
- 会長 基本計画の話題も出ているが、今後のスケジュールについて確認しておきたい。
- 事務局 事務局は、当日配布資料1に基づき説明を行った。
- 会長 最後は、基本計画と合わせて9月に策定ということになる。
- 委員 全体的に横文字が多いように思うので、一般的にわかりやすい表現にしてほしい。
- 事務局 イラスト挿入や注釈を付すなど、わかりやすく編集させていただく。
- 会長 最後に、委員それぞれから順番にご意見をいただきたい。
- 委員 「挑戦」の意志を盛り込むのであれば、特に第一次・第二次産業に携わる人がやる気になるような文章を入れていただけるとありがたい。
- 委員 若い人たちがチャレンジしたい気持ちもわかる。前回の案よりぐっとわかりやすくなった。
- 委員 回を増すごとに議論のポイントは絞られてきた。実は、住んでいる人の気性が魅力なのであり、形には表しにくいですが、現象や感覚としては現

れているので大事にして欲しいと思う。また、過去の歴史、現在活躍している人の掘り起こしから長浜らしさを引き出してほしい。ボランティアガイドがまちの案内をしているが、説明する内容より、その人自身の魅力が評判となっている。これは都会にはない、長浜独特の強みである。

委員 非常によくまとまった印象を受けた。「かがやく」「みなぎる」「つながる」の3つを重点テーマに設定されたことで、コンパクトにまとまったと思う。まちづくりがより活発になればと思う。

委員 将来都市像とキャッチフレーズともに良いと思う。また、取り組む姿勢を重視するという点についても共感を受けた。ただし、将来都市像の前半部分にある「新たな感性を生かす」という言葉が少しわかりにくく感じる。前回の会議では「長浜 Creation みんなで未来を創るまち」で事務局預かりとなったと思うが、「みんなで未来を創るまち」だけを残す形でいいのか。

事務局 「新たな感性を生かし」という言葉を付け加えることによって、長浜らしさが保たれるのではないかと考えている。

委員 将来都市像に横文字を用いるのはどうかと思っていたが、将来都市像とキャッチフレーズを分けたことによってインパクトが出た。とても良いと思う。

委員 将来都市像の提案を楽しみにしていたが、とても良いと思う。長浜市が戦略的に打って出ることが市内外へのアピールとなる。人を呼び、定住してもらうためにはこれくらいの表現が必要だと思う。

委員 当初は「新たな感性」という言葉に思うところはあったが、これからの10年間を生き抜くためにはこういう表現でないといけないのかと思った。時代に応じて施策を変えていくという意味でも「新たな感性」という言葉があった方が良いように思う。ただし、一見では意味が理解しにくいので、注釈は必ず入れて欲しい。

委員 私の感覚では「新たな感性」という言葉はストーンと落ちている。長浜に来てまず気付いたことは、ゴミが落ちていないことであった。また、夜回りなどのコミュニティがしっかりしており、まちを維持するのに役立っていると思う。これはある意味、保守的であることにもつながっていると思う。また、これからは大企業を誘致するのではなく、多種多様な人が起業して少人数を雇用する時代になると思う。そして、多くの人に起業する場所として長浜を選んでもらうことが大切となる。既にある地域の土壌に「新たな感性」が組み合わさることによって、新しい産業なり文化が生れてくると思う。そういう意味においても「新たな感性」という言葉は良いと思う。

委員 具体的なことは書けない中で、うまくまとまっていると思う。人口減少が避けられない中、コンパクトシティを進める上での Challenge &

Creationであり、その辺りの方向性が上手くまとめられている。

先ほども教育に関する意見があったが、現状の記載はあっさりしすぎていると思う。歴史から学ぶことの大切さや、それらの教育を主導する教育者の重要性についても、しっかり位置付けていただきたい。

会 長

現行の基本構想で掲げる将来都市像「協働でつくる 輝きと風格があるまち 長浜」は、ほぼ全ての市民は覚えていないと思う。民間企業でもビジョンや基本理念といったものがあり、行動の基準となっている。今回の「新たな感性を生かし みんなで未来を創るまち」というのは、新しいことに取り組む人が、過去や実績を振り返ることができる言葉であり、わかりやすいと思う。そういう意味でも将来都市像というよりは、ビジョンや基本理念に近いと感じる。これがいつもベースとなって生かされればよいと思う。

総じて、今回の提案は概ね好意的に受け入れられたと思う。細かい修正をしたうえで、概ね了ということによろしいか。

委 員
事 務 局

一よい。

年度末のお忙しい時期にお集まりいただき、また熱心にご議論いただいたことにお礼申しあげる。4月以降、審議会での議論や事務局の作業も大詰めを迎える。今後ともご意見を賜りたい。引き続きよろしく願い申しあげる。

以上